



の いる 風 景

長谷川 誠

さん



【はせがわ まこと さん】 52歳 未広

●千歳科学技術大学教授
青少年のための科学の祭典千歳大会実行委員長

今年の科学の祭典は、11月6日(日)に北ガス文化ホール(市民文化センター)で開催します。

千歳を「科学のまち」と 誇れるようにしたい

「千歳は『科学のまち』。そう誇れるまちにしたい」と話すのは、科学を通じたまちづくりを進めるため、さまざまな活動をしている千歳科学技術大学教授の長谷川さん。

万華鏡や入浴剤作り、グレープフルーツやリングゴでメロディーを鳴らす実験、ロボットアームや飛行機のフライトシミュレーターの体験など30以上のブースが展覧する「青少年のための科学の祭典千歳大会」。毎年、多くの親子連れでにぎわうこの大会の実行委員長を務めている。

「今年で11回目となりますが、これまでよく続いてきたと思います。実は、5回目くらいのとときに、毎年同じような内容になってしまっていると感じていました」と振り返る。

業はこのような製品を造り、また、団体はこのような活動をしていると市民の皆さんが知る良い機会になるよう地元企業・市民活動団体にも出展いただいています」と今は、千歳ならではの祭典になっている。

「科学」というと、ものすごく立派な実験をするものと思うかもしれませんが、身近なことを題材にした気軽な内容の方が面白く、興味を引きやすいものです。普段、当たり前のように行っている企業の仕事や団体の活動は、知らない方にとって興味のあるものかもしれない、会場に訪れた方の新たな興味・関心につながるかもしれません」と笑顔で話す。

また、長谷川さんは市民の皆さんに理科や科学技術の世界の面白さを伝えるため、学生40人ほどで構成するプロジェクトチーム「理科工房」の顧問を10年以上務めている。

小学校のPTA親子レクや児童館

のイベントなどで「理科の実験や工作体験をしたい」との声に応え、年間90回ほど活動している。

「理科の楽しさ、科学技術の素晴らしさなどを皆さんに伝える一方で、学生は、子どもや他の団体の方と関わりことができ、良い社会勉強になっていきます。学生をまちぐるみで育てていただいています」と感謝の気持ちを述べる。

「好奇心や関心を持つ方であふれているまちは、とても素敵です。理科は、実験を通じて目の前で反応が現れるので、『あれ？どうして？すごい！』と興味・関心を持ちやすい分野ですが、『科学II理科』にこだわる必要はありません。自分が知りたいこと、例えば、千歳の歴史や地理について興味があれば、とことん調べてみるのが大切だと思います。たくさんの方の好奇心をくすぐることができるような機会をこれからもつくっていききたい」と長谷川さんは力強く話してくれた。